

彦根市埋蔵文化財調査報告 第30集

# 神ノ木遺跡

— 河瀬土地改良区ほ場整備事業に伴う —

平成9年3月

彦根市教育委員会

## 序

彦根市は、琵琶湖東岸の中央部に位置し、豊かな自然と国宝彦根城をはじめとする数多くの歴史的文化遺産に恵まれ、水と緑に囲まれた美しい城下町として育まれてまいりました。

このような情緒豊かな彦根のまちの形成は、私たちの先人達が永い年月を積み重ねる中で創られてきた文化が基盤となり築かれてきたもので、これを継承し発展していくため、常に創意工夫が凝らされ、磨きがかけられることにより彦根固有の文化が創造されてまいりました。

このような歴史の流れの中で培われてきた文化は、縄文時代からの悠久の歴史を有する本市のかけがえのない貴重な遺産と言え、今日までの歴史の中で人々がどのように生き、何を作り上げてきたのかの認識を一層深めていくことが、伝統と新しさが調和した新しい時代に向けての個性豊かな彦根ならではのまちを創造していく礎になるものと考えております。

このことを私たちに真摯に語りかけてくれるのが、時代の流れを越えて先人達が現在に残してくれた貴重な文化遺産であり、私たち一人ひとりが新しい文化の担い手として、これらの文化財を正しく理解し、活用していくとともに、永く後生に伝えていくことが重要なことであり、当市教育委員会では、貴重な文化財の保護を図るとともに各種の調査事業等を積極的に進めてまいりました。

本報告書は、団体営は場整備事業に伴って実施した神ノ木遺跡の発掘調査の結果をまとめたもので、本書が彦根市の歴史を理解するための一助になれば幸いと望むものであります。

最後になりましたが、この調査にご理解とご協力を賜りました地元の方々をはじめ関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

彦根市教育委員会

教育長 矢 田 徹

## 例　　言

1. 本書は、彦根市金剛寺町字神ノ木他に所在する神ノ木遺跡の発掘調査報告書である。
2. 神ノ木遺跡は、河瀬土地改良区が実施する団体営ほ場整備事業に伴い、文化庁および滋賀県の補助を受け、発掘調査を実施した。
3. 本調査は事務局は次のとおりである。

### 彦根市教育委員会生涯学習課

課　　長　　松　田　一　實	副主幹兼文化財係長	成　宮　誠
課長補佐　馬　渕　喜比古	〃　係主査	本　田　修　平
	〃　係技師	水　谷　千　恵

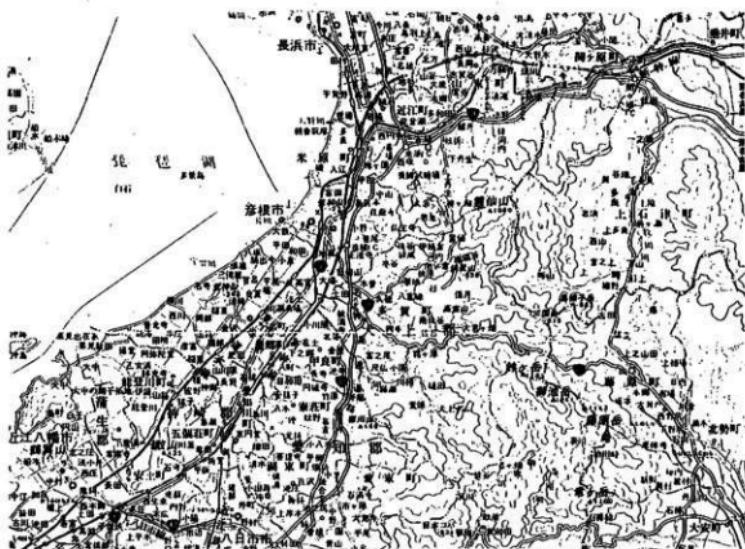
4. 現地調査および報告は文化財係主査 本田修平が行った。

5. 現地調査には次の方々の参加を得た。

調査作業員	今　田　仁　子	上　野　久　雄	上　野　ふ　み	岡　本　修
	門　野　信　子	北　尾　優　美　子	鈴　木　千　代	成　宮　重　策
	西　村　昭　三	古　川　善　一	古　川　久	森　　秋　男

6. 本調査で出土した遺物等資料は当市教育委員会が保管している。

7. 本書図版の北は、磁北である。



第1図 彦根市の位置

## 1.はじめに

神ノ木遺跡は、河瀬土地改良区が実施する団体営ほ場整備事業に伴い発掘調査を実施した遺跡で、今回の調査地域は、周知の遺跡の中間部にあたる。現地の工程では、ほ場整備工事を実施する以前に、県営かんがい排水事業に伴う用水管の埋設工事が予定されていた。管の埋設予定地での試掘調査は県教育委員会文化財保護課が行ったが、遺構等が確認できたため、事前に財政賀県文化財保護協会が県営かんがい排水事業の予定地を発掘調査することになった。その後、ほ場整備工事に伴う調査を当市教育委員会が行うこととして、河瀬土地改良区と協議をした。

埋蔵文化財発掘届等の事務手続きは、平成8年7月1日付け河土改第308号で埋蔵文化財発掘届および発掘調査依頼の提出があり、平成8年7月5日付け彦教委第988号で進達した。

現地の調査は、他の発掘調査の関係から発掘調査に着手したのは平成8年11月29日からであり、全ての事業が終了したのは平成9年3月31日であった。

## 2.位置と環境

神ノ木遺跡は、彦根市のはば中央部に位置する彦根市金剛寺町に所在する。金剛寺町は、JR



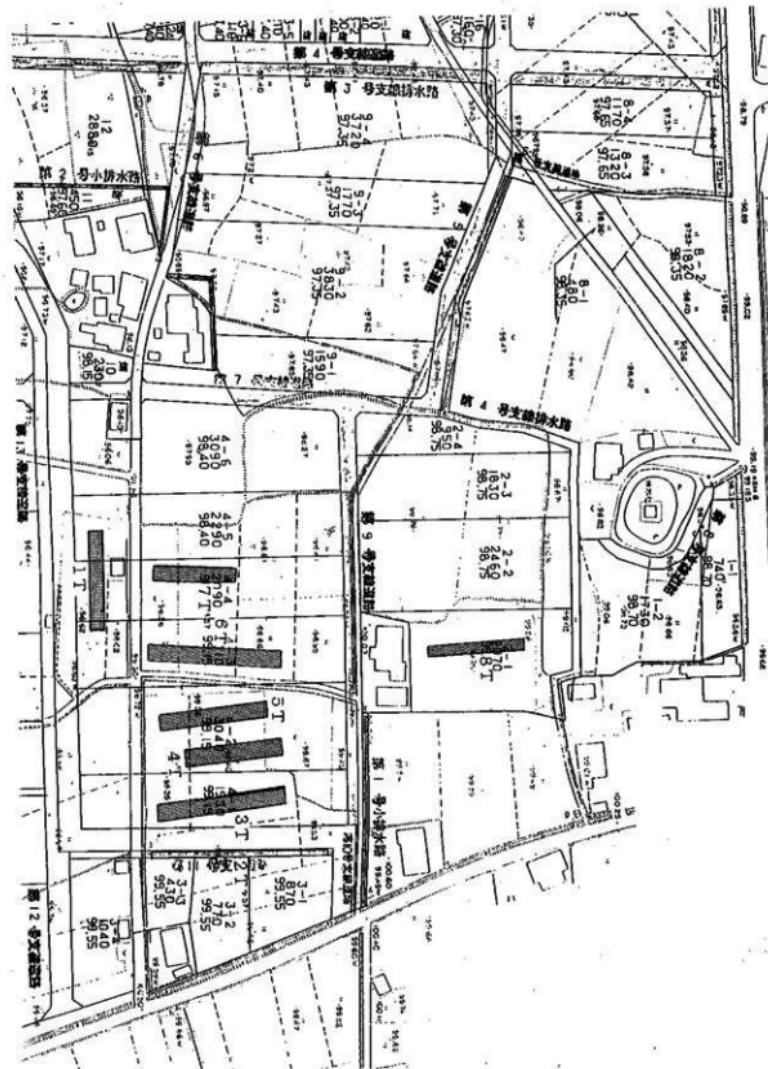
第2図 調査位置図および周辺の遺跡

1 調査地点	2 竹ヶ鼻廃寺遺跡	3 丁田遺跡	4 門田遺跡
5 堀城遺跡	6 横地遺跡	7 石原遺跡	8 蓮台寺城遺跡
9 蓮台寺遺跡	10 寺村遺跡	11 堀南遺跡	12 辻ノ東遺跡
13 神ノ木遺跡	14 段ノ東遺跡	15 杉田遺跡	16 鶴ヶ池遺跡
17 馬場遺跡	18 葛籠北遺跡	19 極楽寺遺跡	20 天田遺跡
21 西海道遺跡			

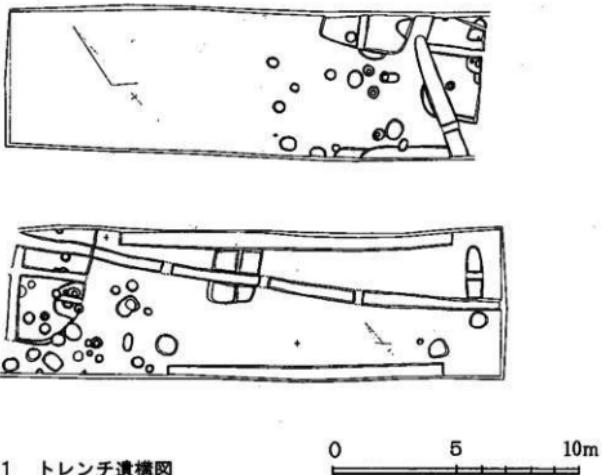
琵琶湖線に沿って東側に広がり、犬上川と宇曾川の形成した扇状地の先端部に立地する。この地域の田は、大きいところで1m前後の段差を持ち、また、小河川の跡と考えられる一段低い田や「しょうず」が湧く地点もあり、地形的には扇状地先端部の様相を示している。この扇状地先端部の地形は、この地点より若干下流部まで続き、堀町付近まで伏流水の湧水地帯になっており、所々に湧水する所がある。

以上のような立地を示すこの地域は、彦根市内でも比較的遺跡の集中する地域である。旧中山道付近から堀町・宇尾町付近までの犬上川中流域は、彦根市内でも過去の発掘調査で主要な遺跡を確認している地域である。すなわち、犬上川左岸では葛籠南遺跡で縄文時代後期の土器を検出しているが、この後の時代は古墳時代まで確認できず、堀南遺跡で古墳時代前期の方形周溝墓を検出している。古墳時代後期には、旧中山道に沿った葛籠北遺跡で削平された古墳時代後期の小円墳および奈良時代のピットを中心とした掘建柱建物跡等を確認している。また、堀町の横地遺跡でも同様に古墳時代後期の削平された小円墳および竪穴住居跡を中心とした遺跡を確認している。以上のことから、この地域は古墳時代に開発が進んだことが考えられる。

また、犬上川右岸は縄文時代後期および晩期の土器等遺物を出土した福満遺跡や極少量ではあるが晩期の土器を出土した品井戸遺跡があり、弥生時代前期には竹ヶ鼻廃寺遺跡が上げられる。古墳時代前期には前記した品井戸遺跡や竹ヶ鼻廃寺遺跡に方形周溝墓が築造された。これらの遺跡からは、古墳時代後期の竪穴住居跡や奈良時代から平安時代の掘建柱建物跡等の遺構を検出し



第3図 トレンチ設定図

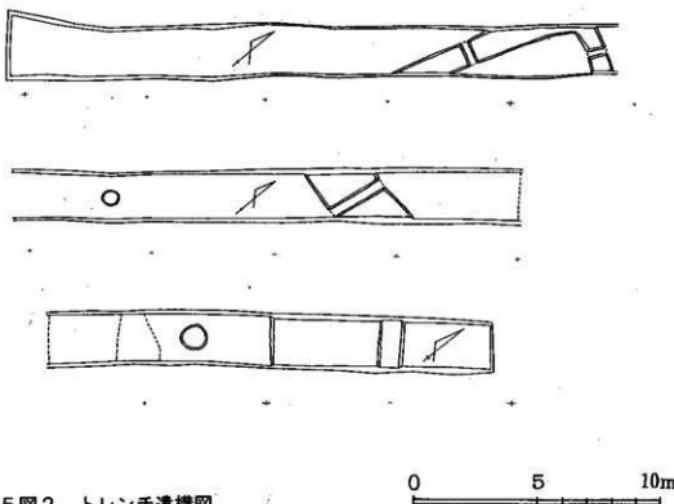


第4図1 トレンチ遺構図

検出しており、地形の若干の変化はあるにしても比較的安定した地形であったことがうかがえる。白鳳時代以降、高宮町の高宮廃寺といわれる遊行塚遺跡や竹ヶ鼻廃寺遺跡が寺院跡として上げられる。特に、竹ヶ鼻廃寺遺跡は奈良時代後期には寺院が取り壊された後に跡地が整地され、大型の掘建柱建物を中心とした倉庫群が建築されており、この倉庫群は郡衙等地方官衙に伴う性格のものと考えている。

以上のように、犬上川の中流域はこの地域を考える上で重要な遺跡が集中したところであり、地形的な安定が古代のこの地域の中心地を形成するのに重要な役割を果たしていたことが考えられる。

当遺跡は、滋賀県文化財保護協会が実施した県営灌漑排水事業に伴う当遺跡の調査結果で、削平された古墳時代後期の小円墳や竪穴住居跡等を検出している。このため、今回の発掘調査は、ほ場整備事業により遺構面の下まで削平される予定の場所にトレンチを設定し、遺構の有無を確認することを主目的とした。また、県教育委員会文化財保護課の試掘調査で遺構等が確認された範囲以外のところについては、立会調査を行い遺構等遺跡の範囲であることが確認できた場合は発掘調査を行うこととした。



第5図2 トレンチ遺構図

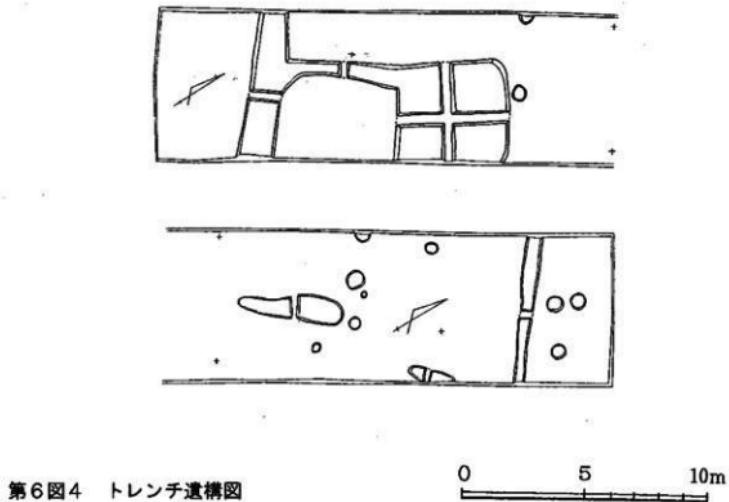
### 3. 調査の結果

今回の発掘調査は、前述したように前回の試掘調査や発掘調査の結果から調査トレンチを設定して調査を実施した。このため、設定したトレンチは、8箇所になったが、以下に各トレンチの調査結果を述べる。

#### 《1トレンチ》

今回の発掘調査範囲の南端で削平予定の地点に設定したトレンチで、市道南彦根・河瀬線から金剛寺町に入る道に並行して設定した。このトレンチの南側は、備滋賀県文化財保護協会が県営灌漑排水事業に伴い送水管の埋設予定地の発掘調査で削平された後期の小円墳を検出したトレンチで、これらの遺構に関連する遺構が検出できるものと考えられた。ただし、トレンチは、農機具用の小屋等の関係で削平予定の畠全体にトレンチを設定することはできなかったが、ほぼ40m×6mである。

土層は、40~50cmの耕作土層を取り去ると第2層の褐黄色土層になる。遺構は、この面からと考えられるが、鉄やマンガンの沈着により遺構の確認が困難なため、10cmほどの第2層を取り、第3層(褐黄色粘質土層が主であるがトレンチ東側は褐黄色砂質土層)で遺構の確認をした。



第6図4 トレンチ遺構図

次に、確認した遺構について記す。

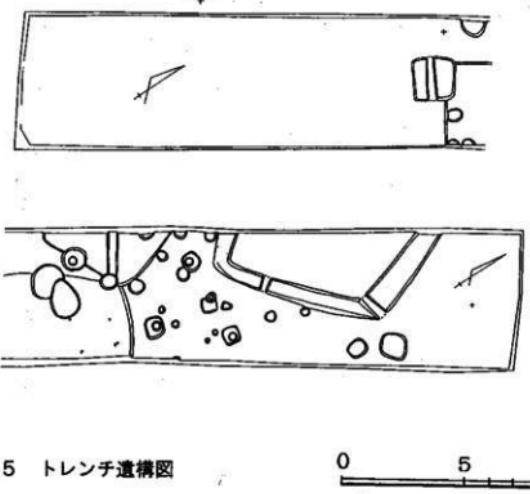
#### SK-1-1

トレンチの東端部からやや北西方向に向きを振ってほぼ直線的に伸び、トレンチの中央部でトレンチからはずれる。溝は、断面「L」字状を成し、幅50cmで深さ20cm～30cmである。遺物は、若干の須恵器以外ほとんど出土しなかったが、耕作土直下から掘り込まれており、また全ての遺構を切っていること等から以前の田もしくは畑に伴う溝である可能性がある。

#### SH-1-1

トレンチ中央部の北側で検出した一辺5.4mを計る隅丸方形の竪穴住居跡で、若干不整形であるが、南側の壁に面して住居跡に伴う溝が検出できた。この溝は、一番幅があるところで20cmを計るが、深さは5cm前後であった。また、東壁付近にある土壙は貯蔵穴の可能性があるが、現状ではその確証は得られなかった。

出土遺物は、須恵器や土師器の小片が主であるが、これらの遺物から考えれば、竪穴住居跡の時代は古墳時代後期のものと考えられる。



第7図5 トレンチ遺構図

#### SH-1-2

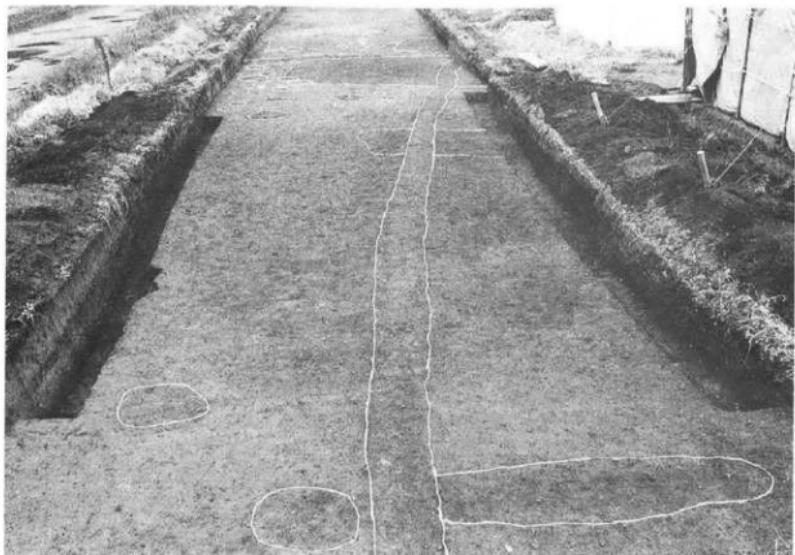
SH-1-1の西側でほぼ並行した形で検出した一辺3.5mを計る隅丸方形の堅穴住居跡であるが、非常に小型のものであるため住居跡以外の遺構である可能性もある。出土遺物は、若干の須恵器および土師器片であり、この住居跡もSH-1-1と同様古墳時代後期のものと考えている。

#### P-1-1

SH-1-1を10cmほど掘り込んで住居跡の床面を検出中に確認したピットで、長辺60cmの不整形な梢円形を成し、深さは40cmを計る。このピットの中からは、縄文時代後期と考えられる土器片が出土した。このうち、ピットの床面で径12cmほどの小型の鉢が完形にちかい形で出土した。また、住居跡の埋土からも極少量ではあるが縄文土器片が出土しており、遺構面は複合しているものと考えられる。

#### SD-1-1

トレンチ東側中間部で検出した幅1.9mのもので、長さは不明であるが、深さは40cmを計る。出土遺物は、須恵器や土師器片で、須恵器は坏身片が入っており、奈良時代のものと考えられるが、その性格は不明である。



1 トレンチ遺構出土状況

#### その他の遺構

その他、土壌や溝・ピット等を検出したが、建物跡や土壙墓・区画の溝等といった遺跡の性格を示すような遺構ではなかった。また、静岡県文化財保護協会の発掘調査で確認している古墳等も検出できなかった。

#### 《2 トレンチ》

市道南彦根・河瀬線の西側の田で、県営灌漑排水事業に伴う用水管理設予定地に設定したトレンチである。静岡県文化財保護協会の調査では、溝を検出している地点の東側の地点で、トレンチは幅 2 m・全長 64 m であった。遺構面の土層は、ほぼ黄褐色粘質土層であったが、北端部は灰褐色砂層になる。また、黄褐色粘質土層のところでは、礫の混じるところもあった。

トレンチ全体での遺物の出土は、遺構の検出時の精査作業中に須恵器や土師器が若干出土したが、各遺構での遺物の出土はほとんどなかった。また、遺構は 3 本の溝の他、ピット 2 箇所だけであり、ピットについてはトレンチの幅が 2 m と狭いため他に関連するものが検出できなかったため、その性格は不明である。

#### SK-2-1

トレンチの南側で検出したもので、断面「L」字状に掘り込まれ、幅 1 m・深さ 15 cm 前後を計る。



1 トレンチ遺物出土状況

溝は北側でほぼ直角に曲がり、幅は80cmとやや細くなるが、その形状から見れば方形周溝墓と考えられる。ただし、その築造された時代を示す遺物の出土は確認できなかった。

#### SK-2-2

トレンチのほぼ中央部で検出した断面「U」字状を成すもので、幅2m・深さ20cmを計る溝である。この溝は、<sup>13</sup> 滋賀県文化財保護協会の調査で検出されたものの続きのものと考えられるが、その時代を示す遺物の出土はなかった。

#### SK-2-3

トレンチの北側で検出した幅4.4m・深さ10cmを計る溝であるが、灰褐色砂層に茶黒色の砂層が入り込んだ状態で検出したものである。このため、地山の砂層の違いだけの可能性もあるが、若干の土師器片が出土している。トレンチを設定した地域の北側は、地山が砂層になっており、その砂層が形成された時の自然流路の可能性も考えられる。

### 《3・6・7トレンチ》

市道南彦根・河瀬線から金剛寺町に入る道に沿った北側の田は、削平される計画であったため各田の遺構の有無を確認することを主目的として3~7トレンチを設定した。このうち、3・



2 レンチ遺構検出状況

6・7 レンチは地山の大半が砂地で、遺構は検出できなかった。

#### 《4 レンチ》

4 レンチは、第3層の褐色粘質土層で遺構面になるが、南側の4mほどが旧耕作土層であり、一段低い旧田面を埋め立てて現在の田にしていた。この一段低い田の埋め立ては、2 レンチでも見られたもので、このレンチでは田の畔に積んでいた石垣がそのまま田の中に埋められていた。このことから、3から5 レンチを設定した田は、かなりの耕地整理を受けていたことが考えられる。

4 レンチの遺構は、溝およびピット等が主である。このうち、レンチ南側で検出した溝は、幅1.4m・深さ20cmを計る断面「L」字状を成すものであった。この溝は、旧田面との関係から田に関係する東西方向に走る用・排水路であると考えられる。また、当初住居跡を考えたSX-4-1は、一辺4.6m・深さ20cmを計るが、幅1m~60cmの溝で東西方向に走る溝とつながるため、その性格は不明である。

この他、ピットおよび溝を検出しているが、その性格を物語るような遺物の出土はなかった。

#### 《5 レンチ》

このレンチも南側1/4は一段低い田を埋め立てて現状の田にしており、一段低い部分は、



4 トレンチ遺構検出状況（南から）

旧耕作土層であった。また、この北側からトレンチ中央部付近までは住居跡や土壤等の遺構と考えられる落ち込みが見られたため掘り込んだが、結果的にはこの部分まで以前の耕地整理の時に付近の遺構面の土で埋め立てた状態であった。

この包含層からの出土遺物は、須恵器や土師器片の他に「和銅開珎」が30枚以上出土している。「和銅開珎」の出土状態は4群に分かれ、多い群で10枚以上、少いもので4~5枚が紐等に通した形で出土している。ただし、その状態は包含層の中で浮いており、10枚以上の群は2つに分離した状態であったことから、本来一群のものであったものが包含層の移動で各群に分離したものと考えられる。

以上のことや遺構面にも遺物が入っていることから、当初遺構と考えた土の違いは、包含層の土質の違いと考えられる。

また、トレンチ北側は、しっかりした褐色黃色粘質土の遺構面で、ピットおよび溝を検出しているが、ピットは不整列なもので掘建柱建物は確認できていない。

#### SD-5-1

トレンチ北側で確認した幅1m・深さ10cmを計る断面「U」字状の溝で、一辺7mの「コ」の字状を成していることが確認できたのである。溝内からの遺物の出土はほとんどないところから、その時代は不明であるが形状から方形周溝墓と考えられる。



4 トレンチ遺構検出状況（北から）

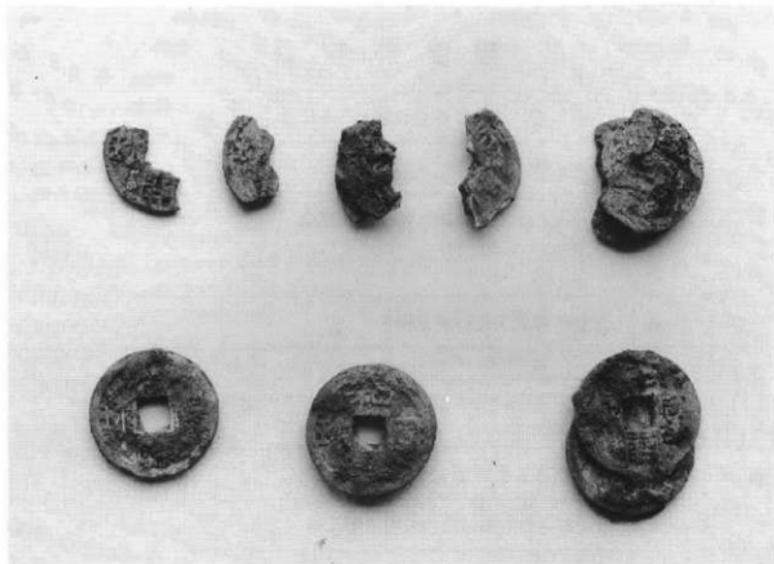
#### 4. ま と め

今回の発掘調査場所は、従来から知られていた神ノ木遺跡の位置とは若干異なり、南にづれたところで遺構面を確認した。神ノ木遺跡は、神ノ木神社の境内として古墳のマウンド状の長径30m・短径20mの楕円形の高まりがあり、古墳と考えられる遺跡である。滋賀県文化財保護協会の調査や今回の調査で方形周溝墓・小円墳が検出できたが、群集墳として神ノ木遺跡の範囲が広かつたのか、同様の別の遺跡かは、今後の発掘調査によるところが多い。

犬上川左岸では、方形周溝墓や古墳を確認している遺跡が、葛籠北遺跡、横地遺跡、堀南遺跡、今回の神ノ木遺跡とあり、平地に立地する後期群集墳といえる。また、同時に存在する方形周溝墓を考えれば、遅くとも古墳時代前期からの系譜が追える資料になる可能性がある。また、これらの遺跡はほとんどが同時代の住居跡を伴うもので、集落と墓域が隣接もしくは未分離の状態で存在した地域であると考えられる。

また、これらの集落跡は、比較的地形が安定した場所を占地し、奈良時代まで続いた集落がほとんどであり、掘建柱建物跡が複合して存在する。今回の調査で明確な奈良時代の遺構は確認していないが、遺構には伴わないものであるが、「和銅開跡」の出土は、彦根市域では今回が初めての例であることから、この付近に有力な集落があったことを示しているものと考えられる。

最後に、今回の調査で縄文時代後期の土器が出土したことは、今まで犬上川左岸では葛籠南



5 トレンチ出土物

遺跡で縄文時代晚期の土器片が出土して以来の例である。犬上川右岸では、福満遺跡で多量の縄文時代後晚期の遺物が出土しているが、旧河床に堆積した2次的な包含層であり、遺跡の実態は不明であるが、今回の縄文時代後期の土器の出土状態は遺構に伴うものであり、今後調査が進めばこの時代の歴史を知る遺跡になる可能性がある。

以上のように、今回は神ノ木遺跡として報告しておくが、今後発掘調査の進展によっては新たな遺跡として適当な名称を付ける必要がある可能性を含め、縄文時代後期から奈良時代までの複合遺跡として、この地域の中心的な遺跡になる可能性が大きいと考える。

## 報告書抄録

ふりがな	かみのきいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
遺跡名	神ノ木遺跡							
副書名	団体営ほ場整備事業に伴う発掘調査							
卷次								
シリーズ名	彦根市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第30集							
編著者名								
編集機関	彦根市教育委員会							
所在地	〒522 滋賀県彦根市元町4番2号							
発行年	平成9年3月							
収録 遺跡名	所在地	コ一ド		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市	町村	遺跡番号				
竹ヶ鼻 魔寺遺跡	彦根市 金剛寺町 地先	25202	-	35° 13' 35"	136° 14' 30"	1996.11.29 1997.03.31	約900m <sup>2</sup>	団体営ほ 場整備事 業に伴う
所録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
神ノ木遺跡	集落跡	縄文時代 後期 奈良時代	堅穴式住居跡 方形周溝墓 土	縄文式小型鉢 土師器 須恵器 古	縄文時代後期 奈良時代までの複合遺跡			

